

Monthly Report

Vol.82 / 2013 Feb.

30歳でプロバスケットボールの世界へ — OB阿部一貴選手 (bjリーグ仙台89ERS)



写真：©SENDAI 89ERS/bj-league



写真：©SENDAI 89ERS/bj-league

あべかずき

2月5日（火）、本学OBの阿部一貴選手（H16年体育学科卒—酒田工業高校出、174cm/72kg、背番号10）が男子プロバスケットボール、bjリーグ仙台89ERSと正式契約を結びました。本学から仙台89ERSへの入団は、さとうしんや佐藤真哉選手（H11年体育学科卒—東北高校出、2005年～2010年シーズンまで仙台89ERSでプレー）以来2人目となります。

阿部選手は、仙台大学では主将を務め、大学卒業後は、地元山形の民間企業に勤めながら吹浦クラブ（山形県遊佐町）でプレーしていました。プロになる夢を叶えるため、昨年企業を退社。昨年7月に仙台89ERSのセレクションを受けて、9月から仙台89ERSの練習生として約5ヶ月間チームに同行するなか、遂に30歳で夢を掴みました。

阿部選手は「大学時代は主将として自由にさせてもらった。寮生活で仲間と過ごした4年間は、かけがえのない思い出。技術より精神的に成長できた4年間だった」と大学時代を謙虚に振り返り、「プロになれて正直ホッとしている」と笑顔で話し、「乾坤一擲（けんこんいってき）の人生の大勝負。早く試合に出て、とにかく結果を残したい」と厳しいプロの世界で戦う決意を語りました。

挑戦し続ける阿部一貴選手への温かいご声援を宜しくお願い致します。

【インタビュー記事：次頁に有り】

< 目次 >

30歳でプロバスケットボールの世界へ — OB阿部一貴選手	1
留学生が日本伝統工芸の「姉様人形作り」を体験	3
クロスカントリー教室を開催	4
大学院修士論文、リサーチペーパー 発表会を開催	5
ポッチャ競技大会を開催	8
学生の活躍	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

プロバスケットボール選手（bjリーグ仙台ERS）

OB阿部一貴選手インタビュー

「乾坤一擲の人生の大勝負」

Q1. バスケットボールをしたきっかけは？

「地元にはバスケットボールのスポーツ少年団しかありませんでした。本当は野球がしたかったのですが、仕方なくはじめたって感じです。」

Q2. プロになった感想は？

「ファンからの熱い声援を受け、改めて重みを感じています。支えてくれている家族のためにも頑張りたいです。」

Q3. バスケットボールを続ける原動力は？

「続ける原動力は、やっぱりバスケットボールが「好き」だからです。自分からバスケットボールをとってしまったら、何も残りません。」



写真：©SENDAI 89ERS/bj-league



写真：©SENDAI 89ERS/bj-league

Q4. 食事でも気を付けていることは？

「単身赴任で一人暮らしなので、「野菜」と「米」を食べるように気を付けています。ウェイトトレーニングの後は、炭水化物を摂るように心がけています。」

Q5. 今の目標は？

「チームとしては、プレーオフに進出することです。個人としては、早く試合に出場してチームの勝利に貢献したいです。」

Q6. 仙台大学で印象に残っている先生や講義は？

「主将を任された自分にとって、勝田先生の「コーチング論」は、リーダーシップやチームワークの大切さなどを学ぶことができ、本当に勉強になりました。宮城先生の「海浜実習」では、自信を与えてくれました。恩師の児玉先生には今でも頭が上がりません。」

Q7. 仙台大学で学んで今、生かされていることは？

「大学時代にトレーニングに関する基礎・基本を学ぶことができたと同時に、社会人としての「基本的なルール」を学ぶことができたと思います。今、身を持って生かされていると感じています。」

Q8. 仙台大学の後輩たちへメッセージをお願いします。

「大学卒業から8年経っても「夢」を思い続け、行動に移した結果、プロバスケットボール選手という「夢」を実現することができました。思い続けることが大事。やらずに後悔してほしくない。家族や先生方への感謝の気持ちを忘れず、何事にも積極的に挑戦してほしいです。」

PROFILE

阿部 一貴（あべ かずき）／プロバスケットボール選手（bjリーグ仙台ERS）



1983年1月6日生まれ。A型。山形県出身。174cm／72kg。ポジションはPG／SG。趣味はドライブ・読書。好きな食べ物はエビチリ。ニックネームはカズ。小学校4年生でバスケットボールを始め、山形県立酒田工業高校に入学、3年時は県ベスト8。仙台大学時代は主将。東北学生バスケットボール選手権では、優秀選手賞に選ばれ、得点王・3ポイント王を受賞。大学卒業後は、地元山形の企業に勤めながら吹浦クラブ（クラブチーム）でプレー。2006年から山形県国体チームに選出。2012年9月からbjリーグ仙台ERSの練習生としてチームに同行。2013年2月5日、仙台ERSと正式に選手契約を締結。プロバスケットボール選手として、試合出場を目指す。

留学生が日本伝統工芸の「姉様人形作り」を体験



写真上下：午前の部の様子
(前列中央が講師の大槻幸子氏)



写真上下：午後の部の様子

2月3日（日）、留学生たちが柴田町の第4区集会所で、日本の伝統工芸「姉様人形作り」を体験（主催：柴田町日中友好協会）しました。（留学生19名<午前の部10名、午後の部9名>が参加。）「姉様人形」は、江戸時代に流行した和紙を使った女の子のままごと遊びの一つで、和紙による人形作りです。

講師は、柴田町男女共同参画審議委員の大槻幸子氏（元小学校教諭）が務めました。大槻氏は「和紙は色彩の美しさ、精巧な模様、丈夫さ、どれをとっても世界に誇れるものである。姉様人形作りを通して、和紙の素晴らしさを外国の方にも知ってほしい」と話されました。

留学生たちは、細かい作業に戸惑いながらも真剣に「姉様人形作り」に取り組んでいました。台東大学（台湾）から留学中の李政欣<リチュンシン>さん（女性）は「とても楽しかった。今回も日本の伝統文化に触れることができ、良い経験になった。姉様人形を上手に作れたので、台湾に帰ったら母親にプレゼントする」。瀋陽師範大学（中国）から留学中の劉俊希<リュウジュンシ>さん（男性）は「難しかった。特に紙人形の胴体部分を作るのに苦労した。和紙の質や柄が素晴らしかった。姉様人形は中国の家族へのお土産にする」と嬉しそうに笑顔を見せながら話しました。

最後の挨拶で大槻氏は「男子留学生がたくさん来てくれたこと、みんなが真面目に取り組んでくれたことが特に嬉しかった。自国に帰ったら、日本の伝統文化を広めてほしい」。柴田町日中友好協会の加茂紀代子副会長は「今後も留学生が日本のことを知るための行事を計画していきたい。日本は優しい国であるということを知ってほしい。また皆さんとお会いできることを楽しみにしています」と述べられました。

姉様人形作り体験終了後、柴田町日中友好協会の平間忠一氏から日本の伝統行事の「節分」が紹介され、留学生たちは「鬼は外、福は内」と大きな声で豆まきを楽しみました。

クロスカントリー教室を実施 —大崎市教育委員会と仙台大学の連携事業—



写真上：児童にスキー指導する星川さん(赤いズボン着用)
写真下：クロスカントリー教室に参加した児童と共に
<写真提供：村石好男鬼首小学校長(S55年体育学科卒)>

1月31日(木)、大崎市教育委員会と仙台大学の連携事業の一環として、昨年に引き続き、オニコウベスキー場でクロスカントリー教室が実施されました。

同教室は、鬼首(おにこうべ)小学校の授業として全校生徒(約30名)が参加しました。全校をあげてスキー活動(クロスカントリー・アルペン)に力を入れている鬼首小学校児童に対し、本学関係者がスキー指導を行いました。

今回は、本学の藤井久雄教授、本多純子・渡邊克弥ほしかわようすけの各臨時職員、学生ボランティア有志3名しまだかずあき<星川陽介さん(運動栄養学科4年—山形・楯岡高校出)、嶋田和晃さんふくちわたる(運動栄養学科4年—東京・東亜学園高校出)、福地渉さん(運動栄養学科4年—泉松陵高校出)>がクロスカントリーを指導しました。

クロスカントリー教室では、はじめは緊張していた児童も学生とすぐに打ち解け、なごやかな雰囲気で行われていました。学生ボランティアとして参加した星川さんは「子どもたちとふれあえてとても楽しかった。仙台大学を卒業しても、こういったボランティアに積極的に参加したい」と話し、学生たちにとっても良い経験になったようです。

<報告：2月5日(火) 学生支援センター>

3カ国15名の留学生が「華道」を通して日本文化を学ぶ



熊坂豊恵師範(右)から指導を受ける
台東大学(台湾)の李尚諭<リシャンイ>さん

2月5日(火)、仙台大学KMCH大会議室(クラブハウス)で、日本の季節感・感性を理解することや掛け軸と華との関係を学ぶため、日本文化体験学習「華道」(主催：仙台大学学生支援センターインターナショナル・ラーニング・サポートグループ)が行われました。同体験学習には、中国・台湾・タイの3カ国から留学生15名が参加しました。

はじめに、阿部武彦名誉教授が床の間と華との関係を解説。

続いて、小原流の熊坂豊恵くましかほうえい>一級家元師範による華型の説明の後、実際に留学生たちが華を生けていきました。

青海省体育科学研究所(中国)の蘇青青ソセイセイ>さん(女性)は「華を生ける角度、空間の作り出し方などが難しかった。生け花を完成させた瞬間は、晴れやかな気分になった」。シーナカリンウィロート大学(タイ)のサラート・マイレーミさん(男性)は「タイでも生け花はあるが、タイの方が少し大きい気がした。正直難しかったが、綺麗にできたし、楽しかった」と感想を述べました。

熊坂師範は「留学生たちに生け花の決まりごとをわかりやすく伝えることが難しかった。興味を持って真面目に取り組んでいた。日本と自国の生け花の違いを感じたはず。異文化に触れることで新しい物の見方や考え方を身につけてほしい。」阿部名誉教授は「みんな真剣に行っていた。良いセンスをしていた。華道を通して、余白の美の文化を理解してほしい」と話し、日本文化を学ぶ意義を述べられました。

仙台大学大学院スポーツ科学研究科 平成24年度「第14回修士論文、第2回リサーチペーパー発表会」を開催

仙台大学大学院スポーツ科学研究科の平成24年度「第14回修士論文、第2回リサーチペーパー発表会」が2月9日（土）に本学大学院研究棟E301教室で開催されました。

はじめに、朴澤学長より「グローバル化社会の大学院教育（中央教育審議会平成23年1月31日答申）を踏まえ、国際的に通用する修士課程教育を通して、グローバル人材を育成することが本大学院の目指すところである。大学院生にとって、集大成となるような発表会が実施されることを期待したい」と挨拶がありました。

続けて、修士論文14名、リサーチペーパー2名、計16名の発表（発表時間は、15分/1人＜発表10分、質疑応答5分＞）がありました。緊張した面持ちの発表者たちは、「震災復興に地域スポーツクラブが果たす役割に関する研究」や「カヌー練習直後の補食提供から食事提供までの時間差異が及ぼす身体組成、運動能力及びコンディショニングへの影響」等、各16の演題（以下参照）について、事前に準備したパワーポイントで研究の成果を示しながら発表しました。また、発表後の質疑応答では、短い時間ながら活発な議論がなされました。

発表会の最後に丸山富雄副学長兼大学院研究科長から「修士論文やリサーチペーパーで努力した経験をいろいろなところでぜひ生かしてほしい」「仙台大学大学院で学んだ誇りと自信を持ってこれからも頑張してほしい」とエールが送られ、発表会が締めくくられました。



「生活習慣に関する日中比較研究」について発表する東北師範大学（中国）からの留学生・高原くこうげんさん

NO	演者	演題
1	安 舒揚	バスケットボールの速攻における有利性の検証並びにミスプレーの構造分析
2	顧 一俊	被災地の子どもの生活および運動状況と体力との関係に関する研究
3	高 原	生活習慣に関する日中比較研究
4	趙 梓洪	中国の子どもの遊びと生活時間の実態に関する研究 ～中国吉林省白山市の子どもと親世代の比較を通して～
5	劉 思	ドライブ反撃の動感地平に関する分析 ～卓球競技のカット選手に対する新たな動感課題として～
6	劉 璐	日中のスポーツ政策の比較研究～特に生涯スポーツに着目して～
7	林 鑫	中国における高齢者に対する在宅サービスの現状～上海市を中心として～
8	李 星	日本のS大学と中国S学院におけるバスケットボール選手の足関節捻挫受傷後の対処法に関する現状調査
9	祁 継良	運動習慣のある高地および平地居住高齢者の形態、体力・健康に関する比較研究
10	石垣 信人	高校の保健科における「共通教養」としての「保健リテラシー」に関する一考察
11	佐々木尚郁	陸上競技における競技意欲向上プログラムの実施による競技意欲と競技成績への影響について
12	佐藤 浩一	震災復興に地域スポーツクラブが果たす役割に関する研究 ～宮城県沿岸地域の事例を通して～
13	藤澤 良彦	体育における教育的可能性に関する研究～シュプランガーの教育学に基づいて～
14	山本光太郎	バスケットボールにおける審判体制に関する研究 ～M県内審判員の特性およびその組織体制の分析を通して～
15	渡邊 克弥	高強度領域での野球の打撃運動における主観的努力度とスイングスピードの対応関係
16	古舘 伸郎	カヌー練習直後の補食提供から食事提供までの時間差異が及ぼす身体組成、運動能力及びコンディショニングへの影響

ボッチャ競技審判講習会を開催



写真上：学生たちにボッチャ競技の審判法を熱心に説明する村上氏（左端）
写真下：村上氏と参加学生たちとの集合写真

2月9日（土）、本学第一体育館でボッチャ競技の審判の知識や技術を学ぶため「ボッチャ講習会」が行われました。同講習会には、仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.の学生20名、本学ボランティア学生1名、東北福祉大学ハンディースポーツアドバンスチームの学生5名、計26名の学生が参加しました。

ボッチャ競技は、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻

痺もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプス）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくBC1～BC4のクラスに分かれて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

講師は、日本ボッチャ協会強化指導部長の村上光輝氏（ロンドンパラリンピックボッチャ競技日本代表コーチ）が務め、学生たちは重度脳性麻痺の方への勾配具（ランプス）を使ったサポートの仕方やボッチャ競技の正しい審判法等を実際に体験し、メモを取るなどしながら熱心に学んでいました。

講師の村上氏は「学生たちは良い雰囲気に参加していた。ボッチャ競技のことをよく勉強している。質問されることも的を得ていた」と話され、感心していました。

仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.のかんだあきのぶ 神田晃伸さん（健康福祉学科4年－北海道・稚内大谷高校出）は「ボッチャ競技の審判としての心構えや正しい計測の仕方が学べた。第32回Co-Aピックボッチャ競技大会では困らず、自信を持って審判ができると思う。ぜひ大会を成功させ、参加者から来年も来たい、楽しかったと言ってもらえるような大会にしたい」と話しました。

なお、上記ボッチャ競技審判講習会に参加した学生たちは、同講習会で学んだことを生かし、2月17日（日）に開催された「第32回Co-Aピックボッチャ競技大会」の企画・運営・実施・審判等を行いました。【P8に関連記事有り】

上越教育大学 学長 若井彌一先生が「仙台大学高校会」に特別参加



挨拶される若井彌一先生

2月9日（土）、「仙台大学高校会」がホテル白萩（仙台市青葉区）で開催され、上越教育大学学長の若井彌一先生（教育行政学）が特別参加されました。若井先生は、本学で昭和53年2月～昭和58年3月まで教鞭を執られました。

仙台大学高校会は、宮城県内の高校に勤務する本学卒業生が会員となり、高校における体育活動の健全な普及発展と母校である仙台大学の発展並びに教職を目指す後輩の育成に寄与するために組織された会です。

当日は、高校会及び本学からも朴澤学長はじめ、丸山、鈴木省、橋本、佐藤滋各副学長らが多数参加。若井先生は「仙台大学は大学教員としての出発点。全身全霊をかけて教育と大学づくりにかかわった」「仙台大学の発展を嬉しく思っている」と挨拶され、懇親会では、同窓生・教職員と旧交を温め合いました。

タイからの留学生が帰国



左からサート・マレーミさん、朴澤学長、スパウ・サイタレーさん、ニジャー・ウトツリチィさん、ベンジャーマ・マンケートコーンさん

2月14日（木）、タイのシーナカリンウィロート大学からの短期留学生が、滞在中の御礼と帰国の挨拶を行うために学長室を訪れました。

今回帰国するのは、サラート・マイレーミさん、スパウ・サイタレーさん、ニジャー・ウトツリチィさん、ベンジャーマ・マンケートコーンさんの4名で、平成24年9月17日～平成25年2月15日までの約半年間、本学で学びました。帰国する留学生を代表して、スパウ・サイタレーさんから朴澤学長へ感謝の手紙（右記参照）が読み上げられました。

留学生4名は、2月16日（土）～18日（月）まで東京を見学した後、2月19日（火）無事にタイに帰国しました。



朴澤学長に感謝の手紙を読み上げるスパウ・サイタレーさん

朴澤学長先生

わたしたちは、タイのシーナカリンウィロート大学体育学部交換留学生として日本にきました。学長先生、そしてみなさま方このたびは、約半年間の間、この仙台大学で学ぶ機会を与えてくださりありがとうございました。

体育実技だけではなく、日本での生活をいろいろ経験できて、とてもうれしく思っています。

本当にここ仙台大学で学べたことをほこりに思います。ここで、得た経験をぜひタイに帰ってもいかしたいと思います。そして、もしまた機会があれば日本にもう一度来たいです。

スパウ・サイタレー

サラート・マイレーミ

ニジャー・ウトツリチィ

ベンジャーマ・マンケートコーンより

健康づくり茶話会 + 楽しい運動 in 仙台大



楽しく運動をしている様子

2月15日（金）、仙台大学災害ボランティア活動の一環として、亘理町公共ゾーン仮設住宅で生活している方々を対象に行われている「エコノミークラス症候群予防運動教室（金曜日）」に参加している方々32名をお招きし、本学35記念館F101教室で「健康づくり茶話会+楽しい運動in仙台大」（主催：仙台大学健康づくり運動サポーター事業）を行いました。

この企画は、同運動教室の参加者から上がった仙台大学来訪希望の声にお応えし、実現したものです。当日は、楽しい運動や茶話会に加え、本学の施設見学も行いました。

参加者たちは「仙台大学に一度来たかった。どの施設もきれいで、雰囲気がとても良かった」「大学生になった気分になった」「仙台大学に来て運動したことで、いつもと違う気分を味わえた」など楽しかった様子をたくさん話して下さいました。

あなざわなおみ

健康づくり運動サポーターの穴沢直美さん（健康福祉学科3年一會津高校出）は、「女川での運動教室には行っていたが、亘理の方々とは初めて接した。仙台大学が約2年間、継続的に亘理で運動教室を行っているの、参加者とスタッフとの信頼関係が出来上がっていたように見えた。何事も継続が大切だと感じた」と感想を話し、「参加者から運動したり、お話ししたりすることがすごく楽しいという声が聞けた。これからも参加者の笑顔の手助けがしたい」と抱負を話しました。

ボッチャ競技大会を開催

－大会を通してボッチャ競技の普及と地域交流を図る－



写真上：ボッチャ競技大会団体戦決勝の様子

写真下：投球されたボールとジャックボール（白いボール）との距離を計測している学生審判

2月17日（日）、仙台大学第五体育館で、老若男女・障害の有無を問わず楽しむことのできるボッチャ競技を通して、ボッチャの魅力・楽しさに触れることやボッチャ競技の普及の場、さらには地域交流の場となることを目的として、第32回Co-Aピック「ボッチャ競技大会」（主催：仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.<コアクト>）が開催されました。

ボッチャ競技は、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプス）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくBC1～BC4のクラスに分かれて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

ボッチャ競技大会には、ボッチャ愛好家や障害者選手など約120名が参加。参加者たちは日頃の練習の成果を発揮し、多くの熱戦が繰り広げられました。

同大会は、仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.の学生及び有志30名、東北福祉大学の学生18名、仙台白百合女子大学の学生8名、計56名の学生たちが企画・運営・実施・審判等を行いました。

し があり さ

同大会実行委員長の志賀亜梨沙さん（健康福祉学科4年一名取高校出）は「みんなよく動いて自分の気づかないところをフォローしてくれました。無事終了することができたのは仲間のお陰です」と感謝の気持ちを話し、また、ボランティアスタッフとして大会運営を支えてくれた

あ べ ち え

OGの阿部智英さん（塩釜高校勤務/H23年健康福祉学科卒一気仙沼高校出）は「勝っても負けてもみんな笑顔だった。それを引き出していた後輩たちを誇りに思う。元気をもらえた」と話しました。

仙台大学障害者スポーツサポート研究部Co-Act.の部長を務める高橋まゆみ准教授は、「年々参加者も多くなり、レベルアップしている。学生たちは、準備をしっかりと行い、円滑な大会運営ができていた」と目を細めながら話しました。

同大会は、良い雰囲気の中かで競技が行われ、好スコアも出るなど健常者と障害者の交流ができ、大変有意義なものとなりました。

BLS部(スケルトン競技) 岸健太さん・西野入まなみさん、 JOCジュニアオリンピックカップスケルトン競技会で優勝



西野入まなみさん(左)、岸健太さん

1月13日(日)に、長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)で行われた「JOCジュニアオリンピックカップスケルトン競技会」において、本学BLS部(ボブスレー・リュージュ・スケルトン部)の岸健太さん(体育学科1年一兵庫・日生学園第三高校出)

＜合計タイム1分53秒63(1本目56秒23、2本目57秒40)＞と西野入まなみさん(運動栄養学科1年一長野南高校出)＜合計タイム1分57秒68(1本目58秒55、2本目59秒13)＞が男女それぞれの部で優勝を果たしました。

大学からスケルトン競技をはじめた岸さんは「高校時代は陸上の円盤投げの選手だった。競技歴はまだ浅いが、スケルトンの魅力にのめり込んでいる。日の丸を背負えるように頑張りたい」。また、高校2年から本格的にスケルトン競技をはじめた西野入さんは「仙台大学に入学してから、競技力の面でも精神的な面でも自分の成長を実感している。オリンピックに出場したい」とそれぞれ今後の抱負を力強く語り、活躍を誓いました。

＜取材日：2月20日(水)、
取材場所：仙台大学ボブスレー・リュージュトラック＞

漕艇部が優勝祝勝会を開催



決意表明する漕艇部(男子)の外崎海舟主将

2月23日(土)、ホテル原田inさくらを会場に、仙台大学漕艇部優勝祝勝会が開催されました。当日は柴田町長、柴田町ボート協会関係者、漕艇部OB・OGなど約80名にご出席頂き、昨年の全日本大学選手権大会の男子舵手つきフォアでの優勝と、U23世界選手権大会の日本代表に主将の外崎海舟さん(体育学科3年一青森・むつ工業高校出)が、ユニバーシアードの日本代表に中川ひかりさん(体育学科2年一愛媛・宇和島水産高校出)がそれぞれ選考されたことなどが報告されました。

それに対して男女両主将は「エイト(男子)、舵手つきクォドルプル(女子)での優勝を目指し努力していく」との決意表明がなされました。

会の中で滝口茂柴田町長から「エイトでの優勝を目指しているということであるが、これまでにホップ・ステップの段階までは来ている。あとは最後のジャンプの段階を残すのみである。最後のジャンプに向けてさらに頑張ってもらいたい」とご挨拶を頂きました。また、朴澤学長からも「昨年の優勝に引き続き、今年も日本代表を選出することになった。これは柴田町ボート協会の方々をはじめ多くの皆様からの応援の賜物である。選手諸君はこの応援を糧にエイト優勝に向けて頑張ってもらいたい」とご挨拶を頂きました。

漕艇部の2013年のシーズンは3月30日～31日に開催される「お花見レガッタ」が最初の大会となります。この大会で勢いをつけ、続く大会での優勝を目指します。

＜報告：漕艇部コーチ 石森靖明＞

平成24年 柴田町スポーツ賞表彰式



2月22日（金）、平成24年1月～12月までの間にスポーツで顕著な成績を挙げた個人および団体を表彰する「平成24年 柴田町スポーツ賞表彰式」が槻木生涯学習センターで開催されました。

本学からは、漕艇部・新体操競技部・体操競技部の3団体と13個人（漕艇2名・ボブスレー2名・スケルトン5名・体操競技4名）が受賞しました。

柴田町スポーツ功績賞（団体）を受賞した漕艇

いまいよしあき
部主務の今井寿亮さん（第34回全日本軽量級選手権大会男子エイト準優勝 他多数／体育学科3年－大阪・清風高校出）は「いつも柴田町の方々に応援して頂いている。本当に感謝の気持ちでいっぱい。来年は日本一を目指す」。柴田町スポーツ功績賞を受賞したボブスレー・リュージュ・スケル

こばやしまい
トン部の小林真衣さん（ノースアメリカンカップ女子スケルトン第13位／体育学科3年－名取北高校出）は「功績賞を頂けて大変光栄。家族や仲間の支えのお陰。来年は栄誉賞（国際大会で8位以上）を目指して頑張りたい」と話し、今後の更なる活躍を誓いました。

※赤字は団体表彰を示す。

NO	種 類	氏名(学科・学年)・団体名	出身校	競技種目	成 績
1	個人 功績賞	池内 風 (体育4年)	京都・伏見工業高校	漕 艇	2012 U23 世界選手権大会 軽量級男子舵なしフォア 第12位
2	個人 功績賞	福田 海人(体育4年)	長崎・大村高校	漕 艇	2012 U23 世界選手権大会 軽量級男子舵なしフォア 第12位
3	団体 功績賞	仙台大学漕艇部	—	—	第34回全日本軽量級選手権大会 男子エイト 準優勝 他多数
4	個人 栄誉賞	黒岩 俊喜(栄養1年)	神奈川・橘高校	ボブスレー	2012/2013 ボブスレー ノースアメリカンカップ 第1戦 4人乗り 第3位 他多数
5	個人 栄誉賞	近藤 康行(情報1年)	兵庫・松陽高校	ボブスレー	2012/2013 ボブスレー ノースアメリカンカップ 第7戦 4人乗り 第7位
6	個人 栄誉賞	渡辺 瑞基(体育4年)	札幌山の手高校	ボブスレー	2011/2012 スケルトン世界ジュニア選手権 男子スケルトン 第6位 他多数
7	個人 功績賞	菊地 貴志(体育4年)	利府高校	スケルトン	2011/2012 スケルトン世界ジュニア選手権 男子スケルトン 第22位 他多数
8	個人 功績賞	米倉 理絵(栄養4年)	利府高校	スケルトン	2011/2012 スケルトン世界ジュニア選手権 女子スケルトン 第20位 他多数
9	個人 功績賞	小林 真衣(体育3年)	名取北高校	スケルトン	2012/2013 スケルトンノースアメリカンカップ 女子スケルトン 第13位 他多数
10	個人 功績賞	明石 七海(体育4年)	名取北高校	スケルトン	2012/2013 スケルトンノースアメリカンカップ 女子スケルトン 第15位 他多数
11	団体 奨励賞	仙台大学新体操競技部	—	—	第65回全日本新体操選手権大会 女子団体総合 第7位 他
12	団体 奨励賞	仙台大学体操競技部	—	—	第66回全日本学生体操競技選手権大会 団体総合 第3位
13	個人 奨励賞	山本 収一(栄養4年)	大阪・大成高校	体操競技	第66回全日本学生体操競技選手権大会 種目別 跳馬 第2位
14	個人 奨励賞	菊池 収祐(体育3年)	岡山・関西高校	体操競技	第66回全日本団体・種目別選手権大会 種目別 ゆか 第2位
15	個人 功績賞	小原 孝之(体育2年)	京都・洛南高校	体操競技	第5回アジア体操競技選手権大会 団体総合 2位(日本代表) 他
16	個人 功績賞	古谷 嘉章(体育1年)	大阪・清風高校	体操競技	第5回アジア体操競技選手権大会 団体総合 2位(日本代表) 他